

病気や健康障害のある人を介護している家庭が多くあることをご存じですか。読者の中には実際に家庭で介護しているという人もいると思います。このコラムでは在宅で介護が必要な人を「療養者」、主に介護をしている人を「介護者」という言葉を使います。

在宅の介護の方法は「こうあるべき」という正解はありません。長年の介護の経験から、家にあるもので工夫したり療養者にあった方法を編み出したりとその創造性は限りないものです。

尊厳を大切にする在宅の 介護ってどういうこと？

さて、ここでは療養者の尊厳を大切にする介護について考えてみましょう。

Aさんは、体が不自由なことや認知症などによって、失禁（お漏らし）をすることが多くなりました。Aさんは濡れた下着や衣類を隠したり、そのままベッド柵に干したりするようになりました。介護者は訪問看護師さんから、Aさんに紙パンツを使用することを勧められました。あなたが介護者ならどのようにAさんに勧めますか。

①介護者「このパンツ紙でできているけど、はき心地よくて使い捨てだから汚れても安心だね」

Aさん「これ、おむつじゃないの、そんなものはけない。馬鹿にしてるの」

介護者「おむつじゃなくてパンツだよ。私でも旅行の時とか便利だしはきたいくらい」

恥ずかしい、情けない、迷惑をかけているなど複雑な気持ちを配慮した介護者の対応ですね。

②介護者「またこんな所に下着隠して、臭いでしょ。何回言ったらわかるの」

Aさん「……」

介護者「看護師さんに紙パンツがいいと勧められたから、今日からはこれちゃんとはいて」

Aさん「おむつはくなんて、赤ちゃんでもあるまいし……」

その人の自立した人格的存在として尊重できない介護は「不適切なケア（介護）」といいます。このような何げない言葉や行為の繰り返しが重なると、悪循環が繰り返り取り返しのつかない事態に発展することもあります。

しかし、自宅での介護は24時間休みなく続いていきます。介護者は感情的になって言い過ぎたり、療養者が悪く受け取ってしまうこともあります。介護者と療養者の関係性のバランスが大切になります。介護サービスを利用したり、専門職に相談したりしながら弱い立場にある療養者の持っている価値を尊重し、その心情に時に思いを馳せる余裕を持つことが尊厳を大切にする介護につながるのではないのでしょうか。